新監督就任

D-ONLINE

第１３号
発行責任者
第５８代
川村俊太

監督・コーチの３名。写真は左から、森井コーチ、前川新監督、辻村コーチ。

プロフィール

前川 明信（まえかわ あきのぶ）
北海道岩見沢市出身。7 歳から少林寺拳法を始める。1996 年同志社大学工学部に入学。現役時代は第 36 代主将としてチームを牽引し、全日本学生大会等でも入賞。卒業後も仕事の傍ら少林寺拳法を続ける。横浜から大阪へ転居したのを機に 2007 年からコーチとして 13 年間後輩の指導に携わる。
資格：六段、一級考試員・審判員、（一財連盟）学生指導員

10 歳（3 級）。道院の演武祭にて。

11 歳（1 級）。市の武道祭にて奉納演武を披露。

13 歳（初段）。心優しき道産子。

“イノベーション” の意識をもてば、この部は更にレベルアップできる
ー指導に携わるきっかけ

1996 年一回生の春合宿。
中央は瀬古元コーチ。
当時の四回生は雲の上の存在。
（左写真）

1999 年四回生の関西学生大会。
迫力満点の振突を繰り出す前川主将。

1998 年三回生の全日本学生大会。
三人掛演武の部三位入賞。

1999 年四回生の京都府大会。
男子大学生の部優勝。

ー前川監督は少林寺拳法を 30 年以上もされているんですよね？
前川監督：そうなんです、小学校 2 年生から。大学でも少林寺拳法をしたいと、迷わず入部しました。大学卒業後は東京で少林寺拳法を続けて、一般の社会人、大学少林寺拳法部の出身者、連盟本部の先生など、様々な方と一緒に修練しました。その中で自分の技術は“長所と短所”が両極端であることを痛感しました。

ー“長所と短所”とは具体的に何ですか？
前川監督：大学時代は、同志社特有の大きくて力強い少林寺拳法が体格の大きい私にとってベストだと思い込んでいました。また、沢山修練をしたという自負もありました。しかし実態は、先輩や師が指導する“形”を受け止めることが中心になっていて、“生きた技術”が身に付いていませんでした。社会人になって当時の支部長に「お前の技術は見た目は大きくて綺麗。でも誰にも当たらないよ」と言われたことは大変ショックな出来事でしたが、このことが私の少林寺拳法に対する意識を変えるきっかけになりました。
あと大学時代は、浅く広くではなく“狭くて深い”修練をしてきたせいで、急に「新しいことをやってみろ」と言われても思うように体が動かせませんでした。そして自分とは異なる視点や理論を受け入れる“勇気”も足りていなかったですね。

ー苦い経験をされたのですね。
前川監督：当時の我が部には、「この技術はこうあるべき」という雰囲気があった気がします。体育会という封建的な組織では、先輩や師の技術が絶対だから仕方が無かったけど、特に我が部はそれに対して“固執”していたように思います。また社会人になってからは、会社や道場の、合理的な運営、幅広い人間関係なんかを目の当たりにして、非常に良い刺激を受けました。

ーそういった経験があって、指導者になられたと。
前川監督：卒業後も行事等で現役部員と顔を合わせた時にはよく話もしていたので、部のことは気になっていました。「部の伝統や師の栄光にすがるだけでなく、新たな考えを柔軟に取り入れる“イノベーション”の意識をもてば、この部は更にレベルアップできる」と思い、微力ながら自分の経験や知識を活かして指導に携わろうと決心しました。

“同志社ファミリー”とは
－目指すチーム像

2009 年全国大会。前川当時コーチは大阪代表。
安道当時監督や四回生辻村さんをはじめとする
現役部員は京都代表。44 代井本さんは三重代表で出場。

―前川監督が目指すチーム像とは何ですか？

前川監督：ズバリ、“同志社ファミリー”です。
自分も相手も尊重しつつ、時には苦しいこともあるけど、家族のような無償の愛をもって最後まで援け合い支え合える。兄姉はたまに里帰りをして弟妹と接することで元気になれる。ご近所さんからも可愛がってもらえる。そんな色々な側面を持った、家族のようなチームです。

―現役部員同士は仲が良い部だと思いますが。

前川監督：もちろん部員同士は、そりゃたまに喧嘩もするけれど、同じ釜の飯を食った大事な仲間だよね。「正直、少林寺拳法はあまり好きじゃないけど、この部の人が好き」って言った部員も過去には居ましたね(笑)。
ところが、コーチ就任前だけど練習に参加した時、当時のある幹部から「卒業したら OB 合練以外は道場に来ないで欲しい」と言われました。排他的な意識が益々強くなったことを印象付けるショックな出来事でした。
私は今でも、現役部員が“主役”だとは思いますが、現役のため“だけ”の部とは思っていません。

―そうは言っても、普段の活動は現役部員が中心ですよね？

前川監督：そうですね。ところで、ビジネスでは“事業”、“顧客”、“価値”を明確にすることが大事だそうです。私は以前、これを敢えて我が部に当てはめてみるという変なことをやってみました(笑)。事業は言わずもがな“部活動”。顧客は主役の“現役部員”、そして“OB・OG”や“ご近所さん＝ご父兄や部外の関係者”。価値は、部員にとっては“人間成長”、OB・OG とご近所さんには“感動を与えること”だと整理しました。
つまり「部活動を通じて、現役部員は人間成長し、また周囲へ感動を与えることでご支援いただき、皆が幸せになる」ことが我が部の存在意義なのだと思います。現役部員は自分の成長を感じて自信をつける。OB・OG は現役から元気をもらって、そして可愛い子だとお小遣いをあげる(笑)。ご近所さんは現役の成長を期待して環境を整えてくれる。そんな“同志社ファミリー”にしたいです。

2013 年の創部 50 周年記念式典で、OB・OGと
現役部員が一体となって成功させた技術披露。

毎年開催される保護者会。部活動への理解を得るために
監督自ら我が部について保護者の皆様に説明している。

―具体的にどのような活動をしますか？

前川監督：この部には昔から、後輩の面倒を手厚く見るという風土はあったし、今も自分の修練より後輩指導を優先していますよね。これは是非残していきたいです。
OB・OGには、まずはOB・OG・現役合同練習会への出席を促しました。当初の出席者は 20 名未満だったけど、今では毎年 50 名程度の方々が集まってくれて大いに盛り上がっています。また合宿や大会、さらには普段の修練にも顔を出す方が多くなって嬉しい限りです。OB・OG 会にはご存知のとおり、現役が開催する各種行事へ参加していただいたり、同志社 EVE や新歓への金銭補助も増えたので、本当に感謝しています。
ご父兄の方には、保護者会を開催して親睦を深めているし、大会に応援にいらっしゃる方も年々増えていますね。

OB・OG ・ 現役合同練習会の様子。
前川監督が現役主将だった1998年 は
OB・OG の参加人数は 11 人 。(上写真)
近年は大人数で盛り上がる。参加者で円陣を組み
カレッジソングを熱唱するのが恒例。(右写真)

技術指導では、実の伴った、正しい少林寺拳法を伝えるように意識されている。（上右写真）

正しく合理的な技術と運営 －日々の活動について

ー技術指導で重視していることは何ですか？

前川監督：私が指導者として重視しているのは、多くの“引き出し”を持つことです。各自の体格をはじめ、間合・角度・速度・虚実など様々なシチュエーションに合わせて指導できれば、部員も納得するので習得が早いです。また、力に反発せず調和する、基本・法形・演武・運用法のバランス、相手の考えをまずは受け入れる、といったことも意識しています。特に拳歴が長くなるほど思い知るのは、布陣、運歩、体捌、手捌、足捌、掛手、など一つひとつの基本動作の大切さ。これが正確にできれば、難度の高い技術も比較的スムーズに身に付けられます。
とにかく、“正しく合理的な”少林寺拳法の技術を伝えて、そして少林寺拳法の魅力にどっぷりハマってほしいです。

年に2回開催する運営会議では
世界一の部になるために議論を重ねる。

ー運営面はどうですか？

前川監督：今までも安道前監督と一緒に、時代の流れや周囲のニーズに合わせながら、社会人の視点を取り入れて運営を改善してきました。コンプライアンスは当然のことながら、報連相をはじめ、PDCAや目的・目標・具体策などの思考の整理方法は、一回生から自然と身に付きます。クラウドの活用による情報の一元化、マニュアル類の充実、などにも注力した結果、この部の運営は合理化、効率化、スピードアップされてきました。当たり前ですが、私が幹部の時の運営とは比べ物になりませんね。「ここは企業ですか」っておっしゃったOBもいらっしゃいました(笑)。
全国の数ある体育会のなかでも、間違いなくトップレベルの組織運営をしていると自負しています。そこは現役部員にも自信を持ってほしいですね。

人格・技術・運営の三拍子が揃った“世界一のチーム”へ －今後の展望

部内改善ミーティングの様子。部員全員が運営上の改善点を検討し、学年関係なく発表していく。

ー現役部員に求めるものは何ですか？

前川監督：部員には今までに何度も話してきましたが、“チャレンジ精神”と“主体性”を持って“前向きに”活動してほしいです。この部はたとえ一度失敗しても挽回する機会は必ず与えてもらえます。段位も学年も関係無く、意識が高くて思いが強ければ、必ず上手になれるし、自分の考えを運営に反映することもできます。特に幹部は40人以上も所属する組織を切り盛りするわけですが、社会へ出てもそんな機会なんてなかなか無いですよ。こうして卒業までに、自惚れではない自信を身に付けてほしいです。

ー前川監督ご自身の目標は？

前川監督：私の使命は、部のビジョンを明確に示すこと、そして各部員には才能や個性を存分に発揮してもらいながら、それをまとめ上げて目標達成に導くことです。それと、時代の流れが加速するなか、我々も常に“変化し続けられる”部でなくてはいけないので、勇気をもって決断していきたいと思います。
そのためには私自身が、少林寺拳法の技術を磨くこと、部活動や仕事を通じて人間成長すること、真実を見極められる力を養うこと、を努力していきます。

ー最後に部員にメッセージをお願いします

前川監督：皆さんと話す時は眉間にしわを寄せているらしいけど、決して不機嫌なんじゃないんです、こういう顔なんです(笑)。自分で言うのも何ですが、顔は怖いけど心は優しいんです・・・・・。
シャイなので、皆から積極的に絡んできてもらえると嬉しいです。ON/OFFのメリハリをつけることが、私のモットーです。やる時はマジでやる、それ以外は目いっぱい楽しむ！！皆で力を合わせて「人格・技術・運営の三拍子が揃った“世界一のチーム”」を目指しましょう！！

コロナ禍であっても温かく思い出に残る前川新監督就任。